

# 金大中氏が危ない！



## ▼金大中氏は民主と統一を願う愛国人士▲

軍事裁判における弁論でも明らかのように、金大中氏が、韓国の民主化と祖国統一を願い、その阻害物である軍事独裁を排すべく闘つてきた愛国人士であることは周知の事実である。

ところが、まだ記憶に新しい「拉致事件」が、金大中氏が七一年大統領選で祖国の平和統一を大胆に公約に掲げ、不正選挙が横行するなかで

この控訴審はわずか七日間、六開廷で結審というスピード審理のうえ、被告側の申請した証人は一人も採用されず、被告の最終陳述も認められないという不公正な裁判であった。第一審判決において、わずか一ヵ月余りの審理、起訴事実のねつ造や拷問による自白の強制など、ありとあらゆる手段を用いて、金大中氏の抹殺の

善戦し、また「自主・平和・民族大團結」の大原則をうたつた七二年南北共同声明を全朝鮮民族こぞって熱烈に支持したことにおそれおのいた朴正熙との腹心達によってひき起こされた。そして、今回の金大中氏に対する極刑判決もまた、朴射殺事件・中米国交回復以降、南北対話のかつてない前進を背景としながら、それに呼応した民主化を求める巨大な波に危機感を深め

た軍部一維新派の中から、全斗煥が実権を握る過程で実行に移したものである。このように、朴正熙・全斗煥が朝鮮民族の悲願に敵対し、外部勢力の支持によってのみ成立している軍事独裁者だからこそ、金大中氏の言論と行動、それへの民衆の広範な支持をおそれ、憎み、「共産主義者」「北のスパイ」というレッテルで抹殺しようとしたのである。

(裏面へ続く)

## ▼金大中氏抹殺の暗黒裁判▲

この控訴審はわずか七日間、六開廷で結審といふ。スピード審理のうえ、被告側の申請した証人は一人も採用されず、被告の最終陳述も認められないという不公正な裁判であった。第一審判決において、わずか一ヵ月余りの審理、起訴事実のねつ造や拷問による自白の強制など、ありとあらゆる手段を用いて、金大中氏の抹殺の

みなさん！ 金大中氏が危ない！

12月初旬にも大法院に於いて死刑判決が下され、判決後すぐに死刑執行が下される恐れが極めて強くなつておらず、金大中氏は危機的な状況におかれている。

12月5日に予想されていた大法院判決は延期された。これは、金大中氏救援の國際世論の力、またその重要な一部をなす日本国民の救援運動の力によるところが大きいであろう。

しかし、全斗煥が軍事ファシストである限り、自ら進んで金大中氏の命を助ける事は有り得ない。

この限られた時間を最大限有効に使い、金大中氏救出の世論を高めよう！ 金大中氏の死刑をやめさせる唯一の力は、國際世論の力であり、その中で日本国民の果すべき役割は大きい。今こそ広範な「金大中氏を救え！」という力強い国民運動を創り出そう！



号

立志社

〒143東京都大田区大森北  
1-16-8大森朝日ビル  
☎03-766-4179(代)

郵便振替  
東京0-70702  
銀行振込口座  
平和相互銀行大森支店  
0925356

毎月1日、15日発行  
定期購読を！

24回(1年)￥3600円  
(密封￥共4000円)

# 年内ハ死刑丸行ハカ！ 今こそ広範な救援運動を

▼金大中氏救出の力強い国民運動を！▲

全斗煥は現在、「第二の維新憲法」下で一層軍事独裁を強め、反対派、民主人士、学生への徹底した弾圧を開始し、金大中氏にその照準をしほつてきている。そしてアメリカ大統領選におけるレーガンの勝利と、情勢は決して樂觀できない。

一方、控訴棄却の報に接して日本政府・外務省は、韓国側に「重大な関心」と「深い憂慮」を伝えた。しかし、第一審において死刑判決が金大中氏の海外での言動を問わないとした政治決着の了解事項に抵触しないとするこじつけの「苦労」だけは回避するため、政治決着そのものを反故にしようという動きが外務官僚の主導の下、公然と行われている。

外務省の木内アジア局長は十月十六日の参議院外務委員会で、韓国側が政治決着の了解事項を守らない例外規定として「政治決着以降に反国家的活動をした場合はこの限りではない」とする「ただし書き」があり、これに抵触すれば、日本滞在中の金大中氏の活動の責任が問われてもやむを得ないとする新たな見解を示した。第二審開始に先立つて示されたこの「解釈」は、自裏を合わせた日韓両政府の合作の産物という疑いが濃厚である。

日本政府のこのような態度は、政治決着を反故にし、金大中裁判を韓国の国内問題にするこ

★金大中氏を殺させるな！

★金大中氏に自由を！

★日本政府は全斗煥へのテコ入れをやめよ！

「政治決着」を見直し、金大中氏の原状回復をはかれ！

★朝鮮の自主的平和統一支持！

アジアー朝鮮の緊張緩和・平和のために、日本政府は対朝鮮政策を転換せよ！

★思想・信条・立場の違いを越えて、今こそ金大中氏救出の力強い国民運動を！

反霸権民主連合を  
めざす国民政治新聞

新生活

を読もう！

—33号の主な内容—

社説

金大中氏に自由を！

全国民的な救援運動を創り出そう！  
時事 経団連訪韓 全斗煥に経済テコ入れ  
カンボジア救援センター第二次派遣団に聞く  
論壇 韓国で次々と学生決起  
毎月一日・一五日発行  
二四回(一年) 年共三六〇〇円  
(密封) 共四〇〇〇円)

とて自らの責任をのがれ、金大中氏らの抹殺に手をかしていることに外ならない。この裏に、福田元首相らの日韓ロビーストの動きがあることもまた明らかである。

しかし、漠大な軍事費を使い、北との緊張をあおっているファッショ軍事独裁政権を、日本政府が支持することは、政府の言う「国益」も反するのではないのか。

南北の緊張緩和・朝鮮半島の安定と平和、これが必要な条件である韓国の民主化といふことは、アジアの平和と安全を守るという点からも、金大中氏は韓国の民主化、朝鮮の平和・統一のためには、なくてはならない人物である。

朝鮮とアジアの平和を守り、韓国の民主化、朝鮮の自主的平和統一を支持する立場から、金大中氏を殺させるな！金大中氏に自由を！を合言葉に、署名運動、集会、デモ、ストライキ等全ゆる手段を駆使して、金氏救出の世論を高めよう！日本政府に全斗煥へのテコ入れをやめさせ、政治決着の見直し、金大中氏の原状回復をはかるよう強く要求していこう！